2013

東西大学校春期集中講座報告書

大正大学

「東西大学校語学研修に参加して」

アーバン福祉学科　高橋由香

今回二週間の留学生活を終えて、韓国でたくさんのことを学んできました。文化体験や現地学生との交流、また個人で食事や買い物、観光など普段韓国人の方々と同じ生活をやってきました。

留学中、韓国の学生と関われたことが私にとって一番の思い出です。日本語を勉強している学生と韓国語を学びたいと来ている私たちが、お互いに母国語を教えあうことで、よりコミュニケーションが取ることができました。そして、言葉がなかなか通じ合えなくても辞書を駆使し、一生懸命やり取りする中で友情も芽生えました。言葉の壁は大きいですが、お互いに親交を深めたいと思っているため、気持ちで通じ合えたのだと思います。

私は今まで、韓国ではソウルしか行ったことがありませんでした。しかし今回訪れて、釜山の良さがたくさんわかりました。釜山の人はソウルの人よりも温かい印象を受けました。タクシー運転手の人によく「日本人？」と聞かれ、日本人留学生であることを伝えると笑顔で優しく接してくださいました。言葉が聞き取れなくなっても、笑い飛ばしてくださったり、私たちが片言の韓国語を話しても最後まで聞き取ってくださいました。

そして、釜山にはきれいで素敵な観光地がたくさんありました。

この写真は広安里です。大きい橋は広安大橋といい、夜になるとライトアップされとても綺麗になります。次に広安里の近くにある海雲台ビーチです。

夏になるとたくさんの観光客で埋め尽くされます。日本の海よりもとても透き通っていて綺麗に感じました。かもめもたくさん飛んでいました。

また、食べ物ではトゥエジクッパというものが釜山の有名な食べ物でした。トゥエジとは、韓国語で豚肉。クッパは韓国語でスープご飯です。

にらをクッパの中に入れ、ご飯を入れて食べます。また、カクテキやキムチを一緒に食べるとさらに美味しかったです。

釜山には以上のように美味しい物も綺麗な観光地も伝えきれないほど、たくさんありました。

最後に、留学中に北朝鮮の報道がたくさん流れていました。私達の日本では兵役制度がありません。また、戦争も憲法で禁じられています。隣の国である韓国と北朝鮮は冷戦状態です。それがとても不思議で信じられませんでした。また報道の多さに恐怖感を覚えました。留学中に仲良くなった男の子も兵役に行っていた子がたくさんいました。また話を聞く中で、一度兵役に行った人は何か起きると召集される可能性があると教えてもらいました。平和ボケしている一方で平和の大切さを改めて感じました。

二週間の留学はとても短く、また機会があれば釜山に訪れたいと思いました。

「東西大学校語学研修に参加して」

人文学科　鹿糠菜穂

　私は今回、東西大学校春季集中講座に２月５日から１８日の２週間、参加させてもらった。はじめての海外で行く前はとても不安だったが、現地に着くと東西大学校の先生たちや生徒の方たちが優しく出迎えてくれ、一気に不安な気持ちは無くなった。初日の夜は大学の近くのサムギョプサルのお店で歓迎会を開いてもらった。そこで東西大学の学生の方と交流をし、いろんな話をしてとても楽しい時間を過ごすことが出来た。東西大学の学生の方たちが日本語を話してくれるため、気軽に話をすることが出来たのである。これから２週間どんなことが待っているのか、すごくわくわくしていたのを覚えている。

次の日から授業になっていたが、最初はオリエンテーションということで私たちの韓国語のレベルをみたり、韓国語の先生のミヨン先生と話をしたりして、和気あいあいとした感じで終わった。教室には私たちを歓迎してくれている弾幕があり、とても嬉しかった。

朝食と昼食は大学近くの食堂で食べたが、そこのおばさんたちや食堂の社長さんがとても優しく、毎日そこへ向かうのがとても楽しみであった。私たちのことを考えてくれ、辛いものを控えめにしてくれたり、何が食べたいか聞いてくれたりして、人の温かさを感じることが出来た。夜食は自由だったので、各自いろんな所へ行き、好きなものを食べた。朝、昼の間隔が短いので、夜になってもあまりお腹が減っておらず、カフェなどで軽めにとることが多かった。韓国にはカフェが多く、また日本に比べて値段も安いので、気軽にカフェに行くことが出来るのである。そのためご飯の後にカフェに行くという流れが自然になっていた。最初に入ったカフェで食べたワッフルがとても美味しかったのを覚えている。

　旧正月は、初日は大正大学に留学に来ていたドジンさんに釜山ツアーに連れて行ってもらった。海雲台に行って海を見たり、ディスコパンパンという乗り物に乗ったり、とても楽しかった。

ほかの日は東西大学の学生の方に、いろいろ連れて行ってもらったり、金先生のご自宅にお邪魔させてもらい、旧正月に食べるというトックスープをご馳走してもらった。チムジルバンという韓国の温泉施設のようなところへ連れて行ってもらい、そこで一晩泊まったのが、とても印象に残っている。ほかにも伝統衣装を着たり、慶州へ行ったり、伝統楽器を演奏させてもらったり、いろいろな体験をさせてもらった。

　今回、この語学研修に参加して感じたことは、もっとお互いを深く知るべきだということである。正直日韓の関係はあまりよくない。韓国では反日教育が行われており、あまり日本をよく思っていないであろう。日本も韓国ほど教育の中でどうこうというものはないものの、韓国をよく思っていない人は多い。そういう点で、この語学研修に参加することにすごく不安があった。しかし、実際行ってみると出会う人みんなとても良い人ばかりで、疑っていた自分がとても恥ずかしく思えたのである。やはり、イメージやそういうものだけで判断するのではなく、実際に行って、自分の目で見て、感じる方が良いのだと感じた。もちろん中にはとても意地悪な人もいるかもしれない。しかしそれは、韓国だけに限らずどの国にも、もちろん日本にも居るものだ。固定観念にとらわれず、実際に体験することがとても重要であると感じた。今回研修に参加したことによって、新しい発見が出来たり、考え方が変わったり、自分の中でとても大きな刺激になった。もっと沢山の人にも、このような経験をしてもらいたい。

今まで以上に韓国語というものを本気で学びたいと考えている。そして、韓国という国をもっと知りたいと気持にもなった。もっと日韓関係が良い方向に進んでくれればいいなと考えている。また機会があれば、語学研修に参加したい。

「東西大学校語学研修に参加して」

歴史学科　小出真理

２月５日から１８日までの１４日間、釜山にある東西大学校へ語学研修に参加してきた。今回の語学研修の中で最も印象に残っている、文化体験の一環で訪れた、歴史文化都市慶州に残存する仏国寺＜불국사＞と石窟庵＜석굴암＞と釜山南部の南浦洞にある龍頭山公園<용두산공원>について触れたいと思う。

①石窟庵

去る２月１４日、私たちは大学バスに乗り込み慶州へと向かった。高速道路を走行中にバスが故障？するという災難に見舞われたが、別のバスに乗り込み、釜山から所要時間２時間程度で到着した。吐含山という山にあるためバスで山道をぐるぐると登らなければならない。その様は、まるで栃木県にあるいろは坂を思い起こさせられた。まず向かったのは石窟庵だ。新羅時代の７５１年に建立が開始され、７７４年に完成した。以後約５００年は儒教を中心とした朝鮮時代に突入したため、仏教は弾圧。仏教遺跡である石窟庵も長らく放置された。１９０９年に偶然発見されたが、土に埋もれていたり存在したのが山中の洞窟だったのも重なって、崩壊寸前であった。日本統治時代の１９１３年ごろに日本による大規模な修復工事が行われた。ここでセメントを使用した結果、換気が難しくなるなどの問題が発生。また、別の場所での展示が決定したので分解移動したところ、復元を誤ってしまった為、石材が余るという通常では考えられない事態に陥ってしまった。１９６１年ごろには韓国文化財管理局の主導で補修工事が行われた。問題の１つである湿度の改善を目的として、後部をさらにセメントで塞ぎ、全面をガラス張りにして人工的に除湿したのだがこの時に作られた木造の前室も換気を妨げる要素となっており、無事解決とはいかなかった。非常に残念な話であるのだが、仏像の配置は日本が適当にやったこととして、並べ替えをしてしまった。工事の後、発見当時の写真や詳細な配置図が見つかり、日本が以前行った配置が正しいことが判明。しかし現在になってもそのままにされている。こういった歴史的背景から、私たちは肝心の仏像に近づくことはおろか、写真撮影も禁止されていたがために媒体として残すことが出来なかったのが何とも口惜しい。見学した時は、仏像の周りに無造作に置かれている石がいったい何なのか気になったが、配置する場所が分からなくなって放置されているものだと知って、何だか悲しい気持ちになった。

②仏国寺

右の写真は仏国寺だ。ここは６つの国宝を有している。“仏国”という言葉には全てが完全に揃った安楽と清潔な国になろうとする願いの意味が込められている。三国統一後、国が最も安定して文化が栄えた７５１年に当時の宰相である金大成によって設計および創建されたお寺だ。最盛期の８世紀には２０００間の約６０棟の木造建築から成り立っていたと言われる。１５９２年の豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄の役）時に多くの建造物が焼失してしまったが、後の改修工事によって復元されたものもある。石窟庵と仏国寺は新羅美術の最高峰の呼び声が高い。そして１９９５年、ユネスコの世界文化遺産としてともに登録されたのである。

③龍頭山公園

釜山の繁華街・南浦洞にあり、エスカレーターを昇るとそこは龍頭山公園。街中のエスカレーターを昇るだけで先程までいた街と同じとは思えないほど静かで落ち着いた場所にたどり着くことが出来る。山頂には釜山タワーがあり、その麓には文禄·慶長の役の際、朝鮮水軍を率いて戦った李舜臣の巨像があるなど有名な観光所の１つになっている。また、公園からは釜山港を一望することができ、喧騒な世界から逃れられることもあってか、市民の憩いの場となっているようだった。日本の江戸時代に当たる朝鮮王朝後期はこの山を含む一帯は倭館の敷地で釜山が開港された後は、日本人の居留地になった。⇒右の写真に写っているものは、この公園の由来ともなった龍である。ある小高い丘が海から眺めたときに龍の頭に似ていたことから名づけられたらしい。行きはエスカレーターがあるのでスイスイと来られるのだが、帰りは階段を下りなければならない。階段を下りればそこはショッピング街・南浦洞。屋台があったり、化粧品ブランドが軒を連ねていたり…ソウルの明洞を髣髴させる様な、だけれど明洞より落ち着いている、素敵な街だ。少し歩けば韓国最大の魚市場であるチャガルチ市場にたどり着く。こちらでは釜山港で水揚げされた新鮮な魚介類を頂くことが出来る。

前述までの話とは大きくずれてしまうが、私は韓国に行って驚いたことがある。これを述べて終わりにしようと思う。それは電車に乗るときに使う切符のことだ。日本でいうSUIKA のような交通カードが存在し、切符も使え、日本と変わりがないように思えたのだが、なんと切符を券売機で買う際、お札は１０００ウォン札しか使用不可なのだ。５０００ウォンや１００００ウォン札が手元にあるならば、すぐ横にある両替機を使用すれば良い。つまりお札のおつりが出ないようになっているのだ。始めは日本にいたときの感覚で何も気にせずに大きいお札を入れたのだが、なかなか券売機が受け取ってくれない。これは少しヒヤリとさせられた出来事であった。以後、１０００ウォン札を切らさないように注意するようになった。韓国には１０００ウォン札・５０００ウォン札・１００００ウォン札・５００００ウォン札の４種類がある。１番大きい５００００ウォン札だが使う機会はさほど多くはないのだそうだ。細かいものの買い物にこれで支払おうとすると、迷惑がられるなんて話も耳にしたことがある。もし、次回も研修を行うなら、研修生はこれを予め知っておくべきだと思う。なぜなら日本円からウォンに両替するとき、必ず受け取るからだ。

「東西大学校語学研修に参加して」

人文学科　田中美希

１．はじめに

2月5日から18日までの2週間韓国の東西大学校に語学研修へ行きました。参加した理由は、２つあります。1つ目は大学2年の春に個人的に友人と2泊3日の旅行で初めて韓国に行ったときに韓国の魅力(ご飯、街並み)に取り付かれ、また韓国へ行きたいと思っていたからです。そして2つ目はハングル文字が読めるようになりたいと思ったからです。

大学に貼られていたポスターを見てこの語学研修があることを知りました。本当はまた旅行で行くことを考えていたのですが、ポスターを見て2週間も韓国で生活しながら語学勉強ができるプログラムに興味を持ち、迷わず参加を希望しました。

しかし、参加希望したものの私は今まで韓国語の勉強をしたことがなく、ハングル文字さえ読めずとても不安でした。この研修は韓国語の授業またはTAP講座が必修とのことだったので、私はTAP講座を受講し1から韓国語の勉強をしました。3年生の1年間TAP講座で勉強したものの、なかなか上達できず、結局単語も文法もわからないまま韓国へ行く日が来てしまいとても不安でした。一緒に参加した人たちはK-POPが大好き、もともと韓国が大好きとさまざまな理由で韓国語を2年以上も勉強していて、聞き取りや会話ができていて余計に不安を感じていました。

出発前は言葉がわからないからどうしよう、道に迷ったときはどうしよう、とりあえず向こうで2週間病気も怪我もせず過ごせるかな…など心配ばかりしていましたが、実際行ってみるとどうにかなってしまうものなのだと思いました。

２．現地での生活

朝起きたら大学の近くにある食堂へ行きます。食堂へ入るときに「アンニョンハセヨ」と挨拶をすると食堂のおばさんたちが笑顔で「アンニョンハセヨ」と挨拶を返してくれて、温かいご飯を出してくれます。ご飯やキムチなどは自由におかわりできるのでおなかいっぱいになるまで食べられます。食堂の社長さんがとてもいい人で、私たちがおいしく食べている姿を見てとてもうれしく思ったらしく、ご褒美にお菓子を私たちにプレゼントしてくれました。

朝食が済んだらすぐに授業が始まります。授業は韓国語で進められます。初日の授業では、私は先生の言っていることがさっぱり解らず本当に苦労しました。しかし、一緒に行った友達に日本語でヒントをくれたり、先生もゆっくり話してくれたりとみんなに助けてもらい本当に助かりました。授業では主に買い物に行ったときなど日常の生活で使えるフレーズを勉強したり、韓国人の友達とペアになって町へ買い物に出かけたりしました。友人と買い物へ行くときに日本の話や韓国の話(お互いの国の好きな食べ物や行ったことある場所の話)をしたりしながら行きました。私は韓国語が全くできないので辞書を片手に単語だけで話していました。韓国の友達は日本語ができますが、私のためにゆっくりゆっくり韓国語で話しかけ、私がわからない単語を辞書で調べているときもずっと待っていてくれました。結局わからないときは日本語で助けてくれたりしました。

授業のほかには、韓国の伝統音楽(サムヌノリ)を体験したり、ハンモック(チマチョゴリ)を着る体験をしたり、私たちの留学のサポートをしてくださった金先生のお宅にお邪魔し、韓国の家庭料理をご馳走していただいたりと旅行だけでは決して体験をすることができないことを経験してきました。

韓国の音楽(サムルノリ)は歌を歌いながらチャンゴという楽器を使って演奏します。日本の能と少し似ているなと感じました。

金先生のアパート(日本で言うとマンション)にもお邪魔させていただきました。家の中は広くてとてもきれいでした。韓国には必ず1台置いてあるといわれているキムチの冷蔵庫もありました。

本当に現地の方は暖かい人たちばかりで、韓国語ができない私にもみんな親切に接してくれました。お店の店員さんや向こうで知り合った韓国人の友達みんな日本語がとても上手だったので本当に困ったときは日本語で対応してもらいました。はじめに言った「どうにかなった」とはこういうことです。でも、わざわざ韓国へ語学研修に行った訳なので、知っている単語だけでもなるべく使うことを心がけました。「これは何ですか？」「これをください」と簡単なフレーズですが使うようにしていました。電車やコンビニで友達と片言の韓国語、日本語交じりで話しをしているとおじさんやコンビニの店員さんに「どこの国から来たの？」「韓国に何しに来たの？」と声をかけてくれたりしました。そのたびに「日本人です。留学に来ました。」と韓国語で話してみたりしました。

日本ではご飯を食べるときお椀を持って食べますが、韓国ではお椀を持たない習慣があり、初めは慣れなくて大変でした。しかし、気づいたらお椀を持たないで食べている自分がいました。

韓国へ行って一番困ったことがスーパーで買い物をしたときです。バッグを持っていないときは店員さんに「買い物袋をください」と言わなければスーパーの袋が貰えません。私は初めてスーパーで買い物をしたときに「袋をください」と韓国語がわからなくて言えませんでした。仕方ないので、持ってきたリュックに詰めて持って帰りました。別の日に「袋をください」と覚えてきたフレーズを使いましたが店員さんになぜか怒られました。韓国語で怒られましたが何言っているのかさっぱりわからずそのまま無視してしまいました。あのときの店員さんは怖かったです。

３．終わりに

大学3年生は就職活動などでとても忙しい時期に行くことにも不安を感じていましたが、参加しなければできない体験をたくさんできたことに満足しています。本当に行ってよかったと思います。授業の最後に先生から「初日に会ったときよりも少し韓国語わかるようになってきたわね。」と言ってくれました。そう言ってもらえるとは思っていなかったので本当にうれしかったです。

韓国の友達もたくさんでき、時々メールのやり取りをしています。まだまだ韓国語ができないので日々勉強しています。またこれからもずっと続けて行きたいと思っています。日本に帰ってきてからも韓国の友達に会いたいと思っているので韓国に行きたいです。

はじめにも言ったとおり、私は韓国語できないことが本当に不安だったけれど韓国語学研修へ行ったことをまったく後悔しておらず、思い切って行ってよかったと思っています。むしろ、韓国語ができないからこそ沢山の経験をしてきました。もし、悩んでいるのであれば、絶対に行くべきだと思います。

「東西大学校語学研修に参加して」

人文学科　内木紫桜

今回、東西大学校春期集中講座に参加して、韓国の生活環境や文化を実際に自ら経験し知ることができた。日本と違った環境で生活することは、簡単なことではないがとても貴重で自分を成長させる良い機会である。

２週間の間韓国で生活し感じたその独自の文化や生活様式は、日本と似ているところもある一方まったく違ったところもあり、とても興味深かった。まず、韓国の人々の性格や考え方について。私が接していて感じた範囲ではあるが、韓国の人は自己主張が強い傾向があるように思う。自分の意見をはっきりと言うことができて、自分の中に隠しておくということがあまりない。もちろん人によって差はあり、控えめな人もいる。それから、冗談を冗談として受け取られないことが多い。これは、自分の思ったことを素直に隠さず伝えるという部分に通じるのかもしれない。また、韓国の男性は女性に対する態度がとても丁寧である。恋人でなくても優しく接するのが韓国では当たり前のようだ。道を歩くときに車道側に回ったり、地下鉄でよろけないように支えたり、相手の分も食事代を出したりと、韓国の男性はこれらを当たり前のように、こちらに気を遣わせないくらいさりげなくこなす。日本の男性でもやらないことではないし、日本の男性も十分気遣いができると思うが、比べてみるとこんなにも違うものかと不思議に思った。

釜山の街の中を移動するとき気になったのは、車のスピードだ。狭く人通りの多い道でも、スピードを保ったまま走る車を多く見たし、路上駐車も多かった。横断歩道を渡るときには、多くの車が次々に猛スピードで走るのでなかなか渡るタイミングが掴めなかった。日本では、渡ろうとしていると止まってくれる車が多いが、韓国ではあまりそういった場面には遭遇しなかった。また、車線は日本と反対である。路線バスにも乗る機会があったが、料金は日本円で約100円程度だった。驚いたのは、最後の客がバスに乗り込んだばかりなのに、すぐさまバスが発車したことである。日本では乗客が席に着くかつり革をつかむのを確認してから発車するのが普通であり、この違いには驚いた。スピードもバスにしては早く、揺れも大きかった。また、タクシーにも乗ったが、こちらも日本に比べて格安で利用することができた。ただ、韓国には異様に高額な運賃を請求するタクシーも走っているらしく、注意するようにと言われた。韓国にいる間に2度利用したが、どちらも一般的なタクシーで、遠回りすることなく無事に目的地までたどり着くことができた。現地で一番多く利用したのは地下鉄である。日本と同じように目的地までの切符を買って、改札を通りホームに入る。日本でいうスイカのようなカードもあり便利だった。地下鉄の車内も日本と同じ作りだったが、いくつか日本とは違う光景もあった。ひとつは、車内での携帯電話の利用だ。日本では電車内での通話はマナー違反であるが、韓国では車内で通話することは普通のことなのである。知ってはいたが、実際に車内で携帯電話の着信音が鳴り、当たり前のように通話が始まったときは少なからず驚いた。それから、地下鉄の車内で突然実演販売が始まることもあった。早い韓国語で話していたため何をしているのかまったく分からず、最初はとまどったが、周りの乗客も特に気に留める様子もなく、韓国ではめずらしくないことなのだろう。

生活していく中で欠かせないのが食事だ。韓国にいるあいだ、休みの日以外は寮のすぐそばの食堂で朝食と昼食をとった。まず、お箸とスプーンはステンレス製で、少し重く手が疲れるくらいだった。それからテーブルには横ではなく縦に並べる。ご飯もステンレス製の器に盛られている。日本のように丸い状態ではなく、器全体にみっちりご飯が詰められたかたちである。おかずは、キムチなどの漬物や海苔、和え物などが小皿に乗って出てくる。これはどんな飲食店でも同じで、おかわり自由である。食べるときには、器を持ち上げないで食べる。日本ではマナー違反とされる行為なので、驚きも大きかった。しばらくは普段の癖で、器を持ち上げてしまうことが多かった。日本では食べられない料理をいくつか食べることができたが、どれもとても美味しかった。

このように、韓国での生活は驚きの連続で、日本との違いがとても多く見つかった。2週間という短い間ではあったが毎日が発見の連続で、国が違うということはこういうことなのだと実感した。韓国語を勉強しているとはいえ、日常会話を問題なくこなせるような能力はなく、様々な場面で言葉が通じないことに困惑した。スーパーのレジでも、タクシーに乗るときも、大学の学生と会話するときも、自分の伝えたいことが伝わらないもどかしさを充分すぎるほど実感した。もっともっと勉強したいと思った。一方で、言葉が通じなくても、国が違っても人間は分かり合えるとも思った。授業の一環で、東西大学の学生と交流することがあった。そのとき、日本語がほとんど分からない学生ももちろんいて、こちらも韓国語があまりできなくて、それでも一緒に過ごすことができて楽しかったし、親切にしてもらえてうれしかった。地下鉄に乗っているときには、日本人だと分かっていて、座席を空けて座るよう促してくれる人がいた。駅で出口を探しているときにも、話していた日本語を聞いて道を教えてくれた人がいた。日本と韓国の間には国際的な問題があることはやはり心得ていたが、韓国にいるあいだそれについて苦しむことはなかった。２週間韓国で過ごしてみて、本当に多くのことを学んだが、もっとも感じたのは人のあたたかさである。

今回が私にとっては初めての海外渡航だったが、この講座を通して学んだこと感じたことはとても大きい。これからも積極的に海外へ足を運びたいと思うし、多くの人に体験してもらいたいとも思う。２週間という期間はあまりにも短く、帰国するのがとても寂しく惜しく感じた。それほど韓国での生活は充実していて、忘れられない経験になった。

「東西大学校語学研修に参加して」

人文学科　木曽 茉和

2月5日から18日まで韓国の釜山にある東西大学校に語学研修に行ってきた。

私が2週間の釜山滞在で感じたことを紹介する。

「食」について

朝ご飯は東西大学の寮近くにある食堂で用意してくれたもので、キムチ・韓国のり・サラダなど数種類の小皿とメインである日替わりのスープとご飯という感じだった。

日本では朝からキムチを食べるということはなかなかしないので、毎日朝からキムチをいただくことに最初はびっくりした。

夜ご飯は各自で食べに行く感じだったので、いろいろな料理を食べてきた。そして全体的に思ったことは、やはり辛い料理が多かった。私は元々辛いものが得意ではなかったので、食べることができるのか心配して行ったが、味が美味しかったので少し我慢すれば食べることができたし、生活していくうちに少しずつ辛味に慣れていくことができた。

あと、街を少し歩くと日本よりカフェが多くて、コーヒーを飲んでひと休みをすることが多かった。値段も5000ウォンほどで日本のサイズでいうとLサイズほどのものが出てくるので、とても利用しやすいと思った。

また、日本と同じくファーストフード店もたくさんあったので、マクドナルドに行ってみた。私はプルコギバーガーとマックナゲットを食べたが、ナゲットのソースが日本のバーベキュー、マスタードとは違いフルーティーな甘いソースが付いてきた。日本にもあるチェーン店を比べてみるとおもしろいと思った。

食費が日本とはくらべものにならないぐらい安かったので、毎日美味しいものをお腹いっぱいに食べることができたし、韓国料理は健康によいものばかりだったので、食については十分満足できた。

「住」について

東西大学の寮に住んで思ったことは、床が「オンドル」という床暖房が全室についていて、日本と違って部屋が寒いと感じることはほとんど無かった。心配していた洗濯は、地下一階にある洗濯機で洗うことができて、乾燥機も置いてあった。一回の使用にそれぞれ1000ウォンかかった。

プラグの形状が日本とは違うので変換機を持っていって髪のアイロンを使ったが、電圧が高いので、日本で使うよりすぐ熱くなった。また、電子機器類の充電も早く、電池の持ちもよかったように感じた。

トイレについて日本と全く違うことは、紙が流せないということだ。紙を流すと詰まってしまうので、横に備え付けてあるごみ箱に捨てなくてはならなかった。日本だと考えられないことなので、なかなか慣れることが出来なかった。

気温は予報でマイナスと聞いていたので、心配していたが、日本とあまり変わらなかったし、逆に帰ってきてからは日本のほうが寒いと感じることもあった。今回の研修では幸いなことにそこまで大雨に降られることがなかったのでよかった。

東西大学は山の上に立地していたので、学校の周りはすごい傾斜のある坂がたくさんあってびっくりした。写真ではあまり伝えることができないが、駅に行くまでにこの坂を降りなくてはならないので、何度も転びそうになりながら歩いた。でも。毎日たくさんの食事をしたのでいい運動のもなった。

「服」について

韓国に行って楽しみだったことの一つにショッピングがあった。元々韓国の方のファッションが好きだったので、服を買いに行くところとしておすすめされた「釜山大」駅に行ってきた。

ここは、日本の原宿みたいな雰囲気でいろいろなお店があった。ここで注目すべきポイントはやはり食と同じく値段であった。一着10000ウォンから15000ウォンで買うことができたし、品質も日本とさほど変わらなかった。しかし、ファッションブランドとして確立されているものについては日本とほとんど変わらない値段であった。

10日目に韓国の伝統衣装である韓服を着る体験をさせていただいた。韓服は日本の着物とは違って、軽く、着ることも簡単だった。値段は日本円でいうと約７万円と教えていただいて、最初は少し高いと思ったが、日本の着物に比べたら安いですよ。と言われ、納得した。

「人」について

今回の語学研修ではたくさんの人に触れ合うことができて、友達もたくさんできた。先生方、食堂の方々が優しく接してくださったことはもちろん、街中でもたくさんの親切に触れることができた。私は前にソウルへ旅行しに行ったことがあるが、釜山の人たちは、ソウルの人たちよりもっと暖かい気がした。日本人だから…と少し心配していた点もあったが、むしろ日本人であったから優しくしてくれたお店の方々もたくさんいた。また釜山の人たちに会いに行きたいと思うきっかけをくれた東西大学と大正大学に感謝しようと思う。